

平成 21 年度 秋期
IT ストラテジスト試験
午前Ⅱ 問題

試験時間 10:50 ～ 11:30 (40 分)

注意事項

- 試験開始及び終了は、監督員の時計が基準です。監督員の指示に従ってください。
試験時間中は、退室できません。
- 試験開始の合図があるまで、問題冊子を開いて中を見てはいけません。
- この注意事項は、問題冊子の裏表紙に続きます。必ず読んでください。
- 答案用紙への受験番号などの記入は、試験開始の合図があってから始めてください。
- 問題は、次の表に従って解答してください。

問題番号	問 1 ～ 問25
選択方法	全問必須

- 答案用紙の記入に当たっては、次の指示に従ってください。
 - B 又は HB の黒鉛筆又はシャープペンシルを使用してください。訂正の場合は、あとが残らないように消しゴムできれいに消し、消しくずを残さないでください。
 - 答案用紙は光学式読取り装置で処理しますので、答案用紙のマークの記入方法のとおりマークしてください。
 - 受験番号欄に、受験番号を記入及びマークしてください。正しくマークされていない場合、答案用紙のマークの記入方法のとおりマークされていない場合は、採点されません。
 - 生年月日欄に、受験票に印字されているとおりの生年月日を記入及びマークしてください。正しくマークされていない場合は、採点されないことがあります。
 - 解答は、次の例題にならって、解答欄に一つだけマークしてください。

〔例題〕 秋の情報処理技術者試験が実施される月はどれか。

ア 8 イ 9 ウ 10 エ 11

正しい答えは“ウ 10”ですから、次のようにマークしてください。

例題	☐ ア ☐ イ ☒ ウ ☐ エ
----	--

注意事項は問題冊子の裏表紙に続きます。
こちら側から裏返して、必ず読んでください。

問1 業務のあるべき姿を表す論理モデルを説明したものはどれか。

- ア 企業における主要機能を明確にして、現状の業務機能を分析し、体系化したもの
- イ 経営目標の達成に必要な業務機能を定義し、体系化したもの
- ウ 現状の業務機能と情報システムでの処理を分析し、相互の関係を明確化したもの
- エ 本来あるべき業務機能と現状を比較・分析し、評価したもの

問2 BPO を説明したものはどれか。

- ア 企業内の業務全体を対象として、業務プロセスを抜本的に見直すことで、品質・コスト・スピードを改善し、競争優位性を確保すること
- イ 災害や事故で被害を受けても、重要事業を中断させない、又は可能な限り中断期間を短くする仕組みを構築すること
- ウ 社内業務のうちコアビジネス以外の業務の一部又は全部を、情報システムと併せて外部に委託することで、経営資源をコアビジネスに集中させること
- エ プロジェクトを、戦略との適合性や費用対効果、リスクといった観点から評価を行い、情報化投資のバランスを管理し、最適化を図ること

問3 マイケルハマーの提唱するリエンジニアリングの特徴はどれか。

- ア 業務の非効率な部分を組織構造の視点から見直し、業務効率の向上と社員の意識改革を図る。
- イ 顧客の満足度を高めることを主眼とし、最新の情報技術を用いて業務プロセスと組織を根本的に改革する。
- ウ 最新の情報技術を用いて業務システムを開発することによって、組織をスリム化し、企業の競争力強化を図る。
- エ ボトムアップ方式で業務システムと組織の改革を図ることであり、社員全員参加型の生産性向上施策である。

問4 BI (Business Intelligence) を説明したものはどれか。

- ア 企業内の業務の流れを可視化し、業務改善サイクルを適応することで、継続的な業務改善に活用しようとする手法
- イ 企業内の異なるシステムを互いに連結し、データやプロセスの効率的な統合を図ることで、企業経営に活用しようとする手法
- ウ 企業内の重要な戦略目標の達成度を測定するための指標の値を把握し、分析することで、業務の進捗管理に活用しようとする手法
- エ 企業内の膨大なデータを蓄積し、分類・加工・分析をすることで、企業の迅速な意思決定に活用しようとする手法

問5 情報システムのアウトソーシングを説明したものはどれか。

- ア 外部の企業に、情報システムの開発、運用、保守などに関するすべて又は一部の業務を委託すること
- イ 情報システム部門を分離して子会社にし、親会社以外からの業務の委託を受けること
- ウ 派遣契約をしている要員が、監督者の指示を受けて、情報システムの開発、運用、保守などに関する作業を実施すること
- エ ユーザ部門に、情報システムの運用、保守のすべて又は一部の業務を移管すること

問6 共通フレーム 2007 によれば、システム化計画の立案よりも後のプロセスで実施するものはどれか。

- ア 現行システムの内容、流れの調査及び課題の分析、抽出
- イ システム開発を担当する開発組織の編成方針と責任部署の決定
- ウ システム稼働時期の設定と全体開発スケジュールの作成
- エ システム化の対象となる業務要件の定義作業

問7 共通フレーム 2007 によれば、企画プロセスのアクティビティはどれか。

- ア RFP（提案依頼書）を発行して、ベンダから提案書を受領する。
- イ 開発プロセスの実行計画を作成する。
- ウ システム化計画及びプロジェクト計画を作成し、承認を受ける。
- エ 投資効果及び業務効果の評価を行う。

問8 システムの機能要件を定義する上で、前提となる要件定義作業はどれか。

- ア 対象業務の業務モデルから業務機能を支援するシステム化機能を整理し、その実現のために必要なシステム方式を策定する。
- イ 対象業務の具体的な業務上の問題点を分析し、解決方向を明確化するとともに、システムを用いて実現すべき課題を定義する。
- ウ 利害関係者からのニーズを整理し、新しい業務の在り方や運用をまとめた上で、業務上実現すべき要件を明らかにする。
- エ 利害関係者要件のシステム要求が技術的に実現可能であるかを検証し、システム設計が可能な技術要件に変換する。

問9 特定顧客、特定製品のセグメントに資源を集中し、専門化を図る戦略はどれか。

ア チャレンジャ戦略

イ ニッチ戦略

ウ フォロワ戦略

エ リーダ戦略

問10 企業戦略におけるマネジメントバイアウト（MBO）に該当する行為はどれか。

ア 価格と期間を公告し、不特定かつ多数の株主から株式を買い付けて、経営支配権を獲得する。

イ 経営陣に属さない一般従業員が、自社の株式を買い取り、経営を引き継ぐ。

ウ 子会社や事業部門の経営陣が、自社の株式を買い取り、独立する。

エ ベンチャーキャピタルが、対象会社に投資するだけでなく、役員を送り込んで経営に関与する。

問11 売り手側でのマーケティング要素 4P は、買い手側での要素 4C に対応するという考え方がある。4P の一つであるプロモーションに対応する 4C の構成要素はどれか。

ア 顧客価値（Customer Value）

イ 顧客コスト（Customer Cost）

ウ コミュニケーション（Communication）

エ 利便性（Convenience）

問12 大量生産・大量販売のメリットを生かしつつ、きめ細かな仕様・機能の取込みなどによって、個々の顧客の好みに応じられる製品やサービスを提供しようとするものはどれか。

- ア ターゲットマーケティング イ ベストプラクティス
ウ ベネフィットセグメンテーション エ マスカスタマイゼーション

問13 ある顧客層の今後3年間を通しての、年間顧客維持率が40%、1人当たり年平均売上高が200万円、売上高コスト比率が50%と想定される場合、今後3年間のLTV（顧客1人当たりの生涯価値）は何万円か。ここで、割引率は考慮しなくてよいものとする。

- ア 62.4 イ 156 ウ 210 エ 312

問14 営業部門で設定するKPI（Key Performance Indicator）とKGI（Key Goal Indicator）の適切な組合せはどれか。

	KPI	KGI
ア	既存顧客売上高	新規顧客売上高
イ	既存顧客訪問件数	新規顧客訪問件数
ウ	新規顧客売上高	新規顧客訪問件数
エ	新規顧客訪問件数	新規顧客売上高

問15 バランススコアカードにおける業績評価指標のうち、“学習と成長の視点”に分類されるものはどれか。

ア 顧客満足度調査の結果

イ 従業員1人当たりの売上高

ウ 従業員の提案件数

エ 新規顧客獲得率

問16 ファイブフォース分析において、企業の競争力に影響を与える五つの要因として、新規参入者の脅威、バイヤの交渉力、競争業者間の敵対関係、代替製品の脅威と、もう一つはどれか。

ア サプライヤの交渉力

イ 自社製品の品質

ウ 消費者の購買力

エ 政府の規制

問17 部品や資材の調達から製品の生産、流通、販売までの、企業間を含めたモノの流れを適切に計画・管理し、最適化して、リードタイムの短縮、在庫コストや流通コストの削減などを実現しようとする考え方はどれか。

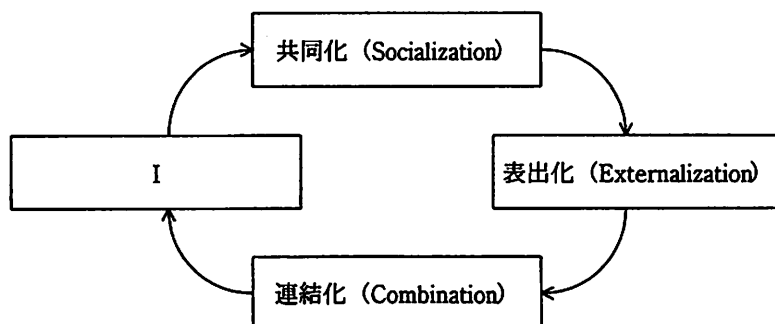
ア CRM

イ ERP

ウ MRP

エ SCM

問18 ナレッジマネジメントのプロセスモデルである SECI モデルにおいて、I に入るものはどれか。



ア 国際化 (Internationalization)

イ 情報化 (Informatization)

ウ 初期化 (Initialization)

エ 内面化 (Internalization)

問19 日本の技術経営における課題のうち、“死の谷”を説明したものはどれか。

ア 基礎研究と製品開発との間をつなぐ研究開発に資金投入が行われなかった結果、基礎研究が製品化に結び付かず、価値利益化ができなくなる問題

イ 基礎研究の成果を製品化に結び付けることができた製品が、市場の過当競争に巻き込まれ、価値利益化ができなくなる問題

ウ 製品が市場に浸透していくライフサイクルにおいて、ターゲットとすべき顧客が異なった属性の層へ替わっていき、価値利益化ができなくなる問題

エ 製品のコモディティ化が進んだ結果、製品の差別化ができなくなり、価値利益化ができなくなる問題

問20 ある会社の生産計画部では、毎月 25 日に次の手続で翌月の計画生産量を決定している。8 月分の計画生産量を求める式はどれか。

〔手続〕

- (1) 当月末の予想在庫量を、前月末の实在在庫量と当月の計画生産量と予想販売量から求める。
- (2) 当月末の予想在庫量と、翌月分の予想販売量から、翌月末の予想在庫量が翌々月から 3 か月間の予想販売量と等しくなるように翌月の計画生産量を決定する。

I6	6 月末实在在庫量		
I7	7 月末予想在庫量	P7	7 月分計画生産量
I8	8 月末予想在庫量	P8	8 月分計画生産量
		S7	7 月分予想販売量
		S8	8 月分予想販売量
		S9	9 月分予想販売量
		S10	10 月分予想販売量
		S11	11 月分予想販売量

I_n : n 月の月末在庫量 P_n : n 月の生産量 S_n : n 月の販売量

ア $I_6 + P_7 - S_7 + S_8$

イ $S_8 + S_9 + S_{10} + S_{11} - I_7$

ウ $S_8 + S_9 + S_{10} + S_{11} - I_8$

エ $S_9 + S_{10} + S_{11} - I_7$

問21 e-ビジネス分野で提唱されているロングテールの考え方を説明したものはどれか。

- ア 売れ筋商品に絞り込んで販売するのではなく、多品種少量販売によって大きな売上や利益を得ることができる。
- イ 業界標準を確立した製品・サービスは生産規模が2倍になると生産性が更に向上し、収益が2倍以上になる。
- ウ 全体の2割の優良顧客が全体の売上の8割を占め、全商品の上位2割が8割の売上を占める。
- エ 利用者が増えるほど、個々の利用者の便益が増加し、その結果、ますます利用者が増えることで寡占化が進む。

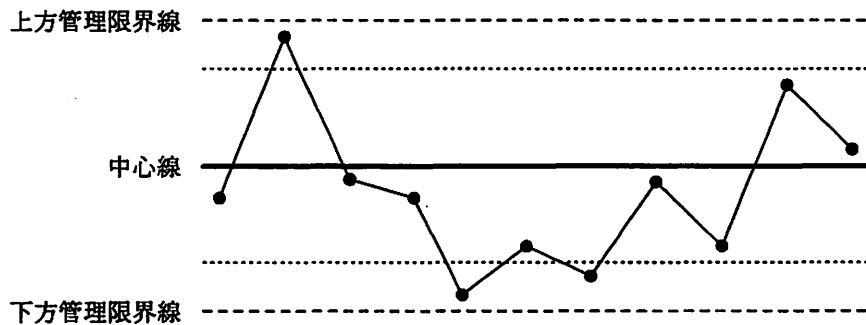
問22 コーポレートガバナンスを説明したものはどれか。

- ア 環境保全対策の費用対効果を定量的に測定して分析し、環境保全コストや環境保全効果などを公表すること
- イ 企業が本来の営利活動とは別に、社会の一員として、社会をより良くするために応分の貢献をすること
- ウ 経営管理が適切に行われているかどうかを監視し、企業活動の健全性を維持する仕組みのこと
- エ 投資家やアナリストに対する広報活動として、企業の経営状況を正確かつ迅速に、そして継続的に公表すること

問23 製造工程で部品の寸法を測定し、 $\bar{x}$ 管理図で品質を管理している。(1)～(4)の社内標準によって、管理図中の点を異常と判定する場合、図に示した $\bar{x}$ 管理図で異常と判定すべき点は何個あるか。ここで、管理限界線近くとは、中心線から管理限界線までの距離の $2/3$ （図中の点線）以上離れた場所をいう。

〔社内標準〕異常と判定する基準

- (1) 管理限界線の外側又は線上に現れる点
- (2) 連続する3点中の2点以上が管理限界線近くに現れる場合の、管理限界線近くの点
- (3) 6個以上の点が、連続して中心線の上側又は下側に現れる場合の、6点目以降の点
- (4) 3個以上の点が、連続して上昇又は下降する場合の、3点目以降の点



ア 2

イ 3

ウ 4

エ 5

問24 EVA（経済付加価値）の算出方法を説明したものはどれか。

- ア 効果の現在価値と投資額の差がゼロになる資本コストを求める。
- イ 投資額に対してどれだけ利益を生み出しているかを求める。
- ウ 投資額を回収するのに必要な期間（年数）を求める。
- エ 利益から資本費用（投資額×資本コスト）を引いて金額を求める。

問25 パブリックドメインソフトウェアとするための条件はどれか。

- ア オリジナルのライセンスと同じ条件を適用する。
- イ 公的機関に対して、ソースコードを公開する。
- ウ 著作権を放棄する、又は放棄の宣言をする。
- エ 著作権を留保したまま、自由な配布を認める。

〔メモ用紙〕

〔メモ用紙〕

メモ用紙

7. 問題に関する質問にはお答えできません。文意どおり解釈してください。
8. 問題冊子の余白などは、適宜利用して構いません。
9. 試験時間中、机上に置けるもの及び使用できるものは、次のものに限ります。
なお、会場での貸出しは行っていません。
受験票、黒鉛筆又はシャープペンシル、鉛筆削り、消しゴム、定規、時計（アラームなど時計以外の機能は使用不可）、ハンカチ、ティッシュ
これら以外は机上に置けません。使用もできません。
10. 試験終了後、この問題冊子は持ち帰ることができます。
11. 答案用紙は、いかなる場合でも提出してください。回収時に提出しない場合は、採点されません。
12. 試験時間中にトイレへ行きたくなったり、気分が悪くなったりした場合は、手を挙げて監督員に合図してください。
13. 午後Ⅰの試験開始は 12:30 ですので、12:10 までに着席してください。

試験問題に記載されている会社名又は製品名は、それぞれ各社の商標又は登録商標です。
なお、試験問題では、® 及び ™ を明記していません。